

# 春告草

第58号 平成29年4月26日 進路指導部発行

## 「学習力」を上げる！

昨年度末に実施したスタディサポートの結果が返却されました。個人診断レポートには、各自の成績が教科ごとに細かく分析されているので必ず確認し、今後の学力向上に役立てよう。また、総合、国語、数学、英語のそれぞれについて、各自の**学力到達ゾーン**と**学習到達ゾーン**がS1～D3の15段階に分けて表示されています。学力到達ゾーンの大体の目安は下表に示すとおりで、「三鷹スタンダード」ではA2以上に学年の半数の生徒が入ることを目標にしています。

表1 学力到達ゾーンと大学合格レベル

		国公立大	私立大	
三鷹スタンダード目標ライン	S1	東大、医学部医学科合格レベル	東大	
	S2	難関大合格レベル	東工大、一橋、京都	
	S3	難関大合格レベル	東北、お茶の水、東京医科歯科、東京外語	早稲田、慶應、ICU
	A1	難関大挑戦レベル	筑波、千葉、東京農工、横浜国立	上智、東京理科、
	A2	国公立・中堅私立大合格レベル	埼玉大、東京学芸、首都大東京、横浜市立	青山学院、中央、明治、立教、津田塾
	A3	国公立・中堅私立大合格レベル	茨城、群馬、信州、都留文科、静岡	学習院、成蹊、東京女子、日本女子、法政
	B1	国公立・中堅私立大挑戦レベル	秋田、山梨、山梨県立、琉球	北里、國學院、芝浦工、順天堂、明治学院
	B2	国公立・中堅私立大挑戦レベル	北見工業、室蘭工業、名桜大、沖縄県立芸術	駒澤、専修、東京農、東洋、日本
	B3	4年制大挑戦レベル		大妻女子、国士館、玉川、東京電機、神奈川
	C1	4年制大挑戦レベル		桜美林、帝京、東海、東京工科、日本体育
	C2	4年制大挑戦レベル		目白、帝京平成、大東文化、拓殖、明星
	C3	実力養成レベル		東京国際、城西国際、文化学園
	D1	基礎力養成レベル		
	D2	基礎力養成レベル		
	D3	基礎・基本養成レベル		

※国公立大は合格可能性60%、私立大は合格可能性40%の目安で表示

学習到達ゾーンは同時に実施した学習状況リサーチの結果から一人一人の「学習量」、「学習行動」、「学習方法」を総合評価した結果です。学力到達ゾーンと同様に、S1～D3の15段階で評価されています。

今回の調査で学力到達ゾーンと学習到達ゾーンの学年全体の評価は右表に示したとおりとなっています。

表2 学力到達ゾーンと学習到達ゾーン

	4年生	5年生	6年生
学力到達ゾーン	A2	A2	A3
学習到達ゾーン	B3	B3	B3

### 学習到達ゾーン < 学力到達ゾーン が招く事態は？

表を見て気づくのは、どの学年も「学習到達ゾーンが学力到達ゾーンよりも低い評価」になっていること。これは、学力に見合う学習形態がとれていないことを表していて、別の言い方をすれば、「勉強していない割には、好成绩が取れている」状態である。このことを「さっすがあ、実力があるからなあ！」と捉えるのは、要注意。不勉強が祟って、いずれ学力低下を招き、「こんなはずではなかった…」「あと半年受験勉強を始めていれば…」という事態を招くのは必至なのです。

6年生、5年生については、昨年、一昨年のデータを表3に掲載しました。全体の傾向であるから、個々のデータを追跡すれば、学力、学習共に良好であるケースはありますが、不勉強が原因で学力低下を招く事態は何としても避けなければいけません。

## 進路希望について

本校生徒の多くは大学進学を目指しています。表4に各学年の進路希望状況を示しました。三期生のデータを時系列に並べると、(4年時、5年時、6年時)の順に、

国公立大志望は(51.3、51.7、63.6)(単位%)

私立大志望は(8.3、9.5、31.1)となっています。学年進行と共に進路意識が明確になっていく様子が分かります。国公立大志望の生徒が少しずつでも増加している傾向は嬉しく思います。

表5は後期課程進級時における「高校で一番したいこと」の回答です。多くの生徒は「勉強も部活動も頑張ってお互いさせたい」と答えていて、その他の項目も含めて、学校生活を意欲的に送りたいと考えているのが分かります。

しかし、表6でも分かるように、5年生、6年生で学習と部活動との両立で悩んでいる人は多く、「両立できている」の回答は高学年ほど低くなっています。それだけ学習に対する要求水準が高まっていると解釈したいところですが…。

表7は部活動参加者、部活動不参加者、通塾者についてそれぞれの平均学習時間です。成績不振の理由を部活動に求めるケースは多いのですが、部活動をやっていなくても、勉強をしない人は、やはり勉強しないのです。今年卒業した二期生についても、遅い時期まで部活動を続けていた人が国公立大を含め難関大に多数合格しています。

## 学習力を上げる

成績向上(得点力向上)のためにはどうすればよいのでしょうか。

簡単に言ってしまうと「勉強時間を増やせ!」ですが、「学習量」に加え「学習行動」や「学習方法」にも意識して取り組まなければいけません。

「学習行動」は自宅学習、授業、定期試験、辞書利用などについてどのような行動がとれているか、「学習方法」は学習に取り組むレベルに注目します。個人診断レポートと一緒に配付された活用BOOK「スタディナビゲーター」を読んで自己評価してみましょう。

学習量+学習行動+学習方法の3要素を総合した力が、その人の「学習力」ということになります。量的・質的に中身の濃い学習を実践することが大切です。

## 進路実現に向けて

現在の学力位置の確認と課題発見、および学力向上に向けての努力目標を明確にするために学診テストを実施していますが、着実に学力を向上させ、目標校レベルに近付いていく生徒がいる反面、学力を低下させ目標から遠ざかっていく生徒も少なからず存在します。

「文武両道」という言葉があり、本校で部活動を続けていれば、文武両道を実行できていると錯覚しがちですが、容易に達成されるものではなく、強い精神力が求められます。頑張りましょう。

表3 学力到達ゾーンと学習到達ゾーンの推移

		4年時	5年時	6年時
三期生	学力到達ゾーン	A2	→ A2	→ A3
	学習到達ゾーン	B2	→ B3	→ B3
四期生	学力到達ゾーン	A3	→ A2	
	学習到達ゾーン	B2	→ B3	

表4 卒業後の進路希望(%)

進路希望	4年生	5年生	6年生
4年制大(国公立)	44.9	55.2	63.6
4年制大(私立・大学校)	10.1	17.5	31.1
4年制大(国公立・私立未定)	24.7	21.4	2.6
短期大学	0	0.6	0
専門学校	1.3	1.3	0.7
海外進学	1.9	0	1.3
就職	0	0	0.7
その他	0	1.3	0
未定	17.1	2.6	0

表5 高校で一番したいこと(後期課程進級時の調査%)

	4年生	5年生	6年生
勉強も部活動も頑張ってお互いさせたい	項目なく未調査	58.8	45.5
両立させるが勉強に重点		15.6	21.8
両立させるが部活動に重点		5.6	6.4
勉強に的を絞った生活		6.3	5.1
部活動に的を絞った生活		0	1.9
友人を多く作り、楽しい生活		6.9	10.3
その他		6.3	8.3
特にやりたいことはない	0.6	0.6	

表6 学習と部活動の両立について(%)

進路希望	4年生	5年生	6年生
両立できている	48.1	31.8	27.2
部活動の影響で思うように学習できていない	42.4	51.3	48.3
部活動はしていない	8.9	16.2	23.2

表7 部活動参加・不参加と学習時間

		平日	休日
4年生	部活動参加者	1時間2分	1時間57分
	部活動不参加者	46分	1時間32分
	通塾者	48分	1時間35分
5年生	部活動参加者	1時間11分	1時間57分
	部活動不参加者	49分	1時間18分
	通塾者	1時間3分	1時間38分
6年生	部活動参加者	1時間47分	2時間45分
	部活動不参加者	1時間22分	2時間14分
	通塾者	1時間36分	2時間33分

## 2017年度大学入試を振り返る

3回目 私立大続編

2017年度私立大の志願者数は前年度比8%増加した。定員増に加え、国公立大の「文縮理拡」の学部改組、センター試験の「国語ショック」などが、文理を問わず私立大にとって追い風となった模様だ。学部系統別では、経済・社会・国際など、文系の全面的な志願者増加が目立った。

今年度の私立大学入試状況を振り返ってみたい。

## 志願者増加 ←→ 合格者減少 の厳しい現実

■受験生数の増加を大幅に超える志願者増 国公立大学の受験は各日程1大学に限られるが、私立大学は何校でも受験が可能である。右図は大学受験生数と私立大一般入試の志願者数をグラフで表したもののだが、受験生数が微増であるのに対して、志願者数は前年比8%の大幅増となった。こうなった背景については既に春告草第56号で説明したとおり、次のことが影響している。すなわち、

「国立大の文系縮小」、「センター試験の国語ショック」である。

文系、理系ともに国立大志望者が私立難関大～中堅上位校を併願先として例年より多く出願するだろうとの予測で、私大専願者は押し出される形で中堅校への併願を増やした状況がある。表には今年度入試で志願者の多かった大学20校を上位から掲載したが、上記2点以外にも私大独自の事情が志願者増の背景にある。

■定員管理の厳格化と定員の大幅増 いわゆる「水増し合格」に対する規制が2016年から始まった。大都市圏大規模校に学生が集中することの緩和を目的としているが、この規制に違反すると補助金打切りのペナルティが課される。今年度入試では、収容定員8千人以上の大規模校では定員超過率が1.14倍と定められていた。

(「平成28年度以降の定員管理に係る私立大学等経常費補助金の取扱について」平成27年7月10日 文部科学省通知)

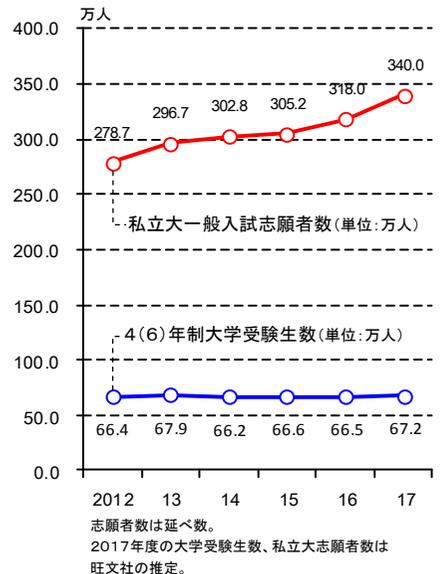
この為、「厳格化」への対策として定員増を行う大学が続出(私立61大学で約9千人の増加)した結果、倍率緩和を期待した志願者が集まる要因となった。定員増を行わない大学でも合格者減による難化が予想され、併願校を増やす傾向が強まったとみている。

2018年度入試では、さらに規制が厳しくなり、大規模校では定員超過率の上限が1.10倍となる。補助金打切りは大学にとって経営に関わる大問題である。来年度入試では今年度以上に、合格者の厳しい絞り込みが行われるだろう。今年度入試では「志願者増加、合格者減少」という現象が起きている。正規合格者まで発表した97私大の集計(3月中旬現在)では、受験者数9%増に対して、合格者は2%の減少である。早稲田大でも「受験者6%増、合格者10%減」で、受験生にとっては厳しい状況があった。

■ネット出願・併願割の普及 今年度入試では、インターネットを利用した出願(ネット出願)を実施する大学は前年比で約3割増加し、私大全体の過半数で実施された。しかも、ネット出願導入大学の約5割が、全面移行(紙での出願を廃止)だった。学内併願の受験料割引(併願割)の導入・拡充もあり、1クリックで気軽に出願できることが併願増に結び付いた。

■英語外部検定利用方式の導入 前年に引き続き、一般入試やセンター試験の英語の代わりに「英語外部検定」を利用した大学が増えた。従来の入試の中で選択科目的に利用する場合や、新方式としての実施でも募集人員が少ないケースが多いが、新規に利用した早稲田大一文・文化構想や明治学院大(全学部日程)などは多数の志願者を集めた。既に実施していた法政大「英語外部試験利用入試」や立教大「グローバル方式」でも認知度の高まりとともに志願者は大幅に増加した。

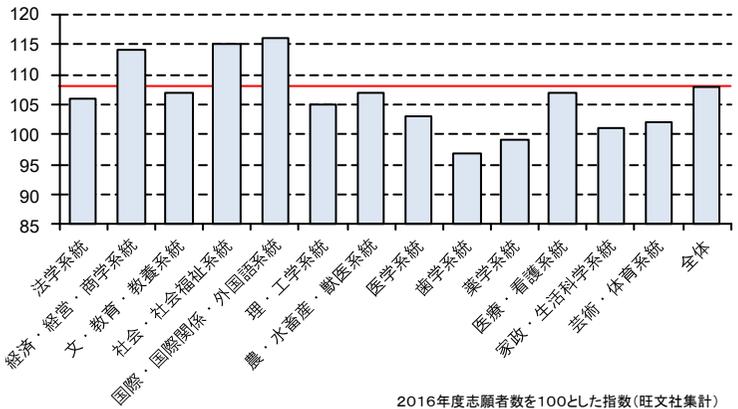
私立大一般入試志願者数と大学受験生数の推移



## 学部系統別志願状況

良好な就職状況を反映し、経済・経営・商、社会・社会福祉、国際・国際関係・外国語の大幅増など、文系学部の志願者は軒並み増加した。一方、理系学部も理・工、農・水畜産・獣医、新增設の相次いだ医療・看護が増加したが、歯・薬の減少など、文系ほどの勢いはなかった。

## 2017年度私立大学一般入試 学部系統別志願状況



## 志願者の多い大学 TOP20

順位	大学名	2017年度志願者数	2016年度志願者数	志願指数	増減	前年順位	主な変更点とTOPICS
1	近畿大◎	146,896	119,915	<b>123</b>	△	1	定員増(全学で920人増、約13%増)/農・生物理工・工・産業理工の4学部で、学部内併用方式を導入
2	法政大◎	119,206	101,976	<b>117</b>	△	5	ネット出願に全面移行/経済(国際経済)で英語外部試験利用入試新規実施(出願資格)/国際文化で七試利用入試新規実施(3教科型のB方式)/文(英文・心理)、現代福祉、デザイン(建築)で、七試C方式(5教科型)を新規実施
3	早稲田大◎	114,983	108,039	<b>106</b>	↑	3	ネット出願に全面移行/文・文化構想で「英語4技能テスト利用型」を新規実施(出願資格、国語・地歴で合否判定)
4	明治大◎	113,507	108,500	<b>105</b>	↑	2	情報コミュニケーションで一般B方式(情報総合必須)を廃止/経営で「英語4技能試験活用方式」を新規実施(出願資格+得点換算)/政治経済で七試利用後期を廃止
5	日本大◎	112,583	104,558	<b>108</b>	↑	4	ネット出願に全面移行/文理・経済・芸術・生物資源科学がN方式1期(学部共通入試)新規参加/法のA方式2期で2学科以上の同時併願と受験料割引を導入/理工の七試C方式2期で、5教科6科目→3教科4科目に軽減
6	東洋大◎	101,180	84,886	<b>119</b>	△	7	学部増設、学部改組、定員増(全学で569人、約8%増)/一般前期で英語外部検定利用が可能に(出願時に登録・得点換算)。従来の英語と高得点の方で合否判定/七試前期5教科型の実施学部・学科増
7	立命館大◎	96,126	94,930	<b>101</b>		6	定員増(全学で472人増、約7%増)/ネット出願に全面移行/情報理工で学部改組/情報理工で「七試+面接」グローバル方式を新規実施/情報理工の七試併用方式で、英数国語と数学重視型を廃止し、新方式を実施/総合心理の七試利用入試で3教科型を廃止
8	関西大◎	84,586	82,592	<b>102</b>		8	ネット出願に全面移行/文は「英語外部試験利用方式」を新規実施(出願資格)/外国語は全学部日程の2教科型英国方式で、新たに英語外部検定を利用(見なし満点)
9	千葉工業大◎	74,466	76,495	<b>97</b>		9	昨年まで8年連続で志願者大幅増(8年間で約8倍)の反動
10	中央大☆	74,029	75,275	<b>98</b>		10	6学部で定員増(全学で454人、約8%増)したが、前年の志願者8%増の反動で志願者減となった/総合政策一般入試の国語で出題科目に古文を追加/経済・文・総合政策で英語外部検定利用入試を新規実施(出願資格、英語以外の科目で合否判定)
11	立教大◎	62,655	60,693	<b>103</b>		11	定員増(全学で454人増、約11%増)/ネット出願に全面移行/「セントポール奨学金」(首都圏出身者対象の入学前予約型給付奨学金制度)を採用枠250人/「自由の学府」奨学金(首都圏以外の出身者対象)の採用枠を倍増(250人→500人)
12	青山学院大◎	60,966	59,850	<b>102</b>		12	定員増(全学で318人増、約8%増)/国際政治経済の個別学部日程B方式で、英語リスニングを除外し、新たに英語外部検定利用(出願資格)に/経済・経営で、英語にTEAP利用方式(経済はB方式、経営はC方式)を導入(「読む」・「聞く」の2技能で判定。得点換算)/学外試験場を増設
13	同志社大☆	56,152	50,147	<b>112</b>	△	14	大阪大の後期日程募集停止の影響大/一般入試をネット出願(割引なし)の対象に追加/七試利用入試で理工(エネルギー・機械工)は5科目方式、社会(社会・教育文化)は個別試験(小論文)を廃止
14	東京理科大◎	53,515	51,404	<b>104</b>		13	定員増(全学で325人増、約9%)/一般B方式で、受験科目が同じなら同一試験日の2学科まで併願可能に(受験料の併願割引あり)
15	東海大◎	49,107	45,207	<b>109</b>	↑	17	文系・理系学部統一入試(理系学部統一入試を名称変更)を、国際文化・文・観光・政治経済・法・教養(社会環境・国際・健康科学(社会福祉)、海洋(海洋文明・環境社会)、経営で新規実施/医がネット出願に全面移行し、全学がネット出願に統一
16	福岡大◎	49,047	47,509	<b>103</b>		16	一般入試、七試I期、七試併用がネット出願に全面移行/全学部の七試I・II期、七試併用で英語外部検定が利用可能に(得点換算)
17	龍谷大◎	48,963	47,694	<b>103</b>		15	定員増(全学で154人、約3%増)/七試前期で英語外部検定利用が可能に(見なし満点)/七試中期で国際・理工工が4教科型(七試のみ)を導入し、国際の3教科型(独自・七試併用)を廃止
18	慶應義塾大◎	44,845	44,797	<b>100</b>		18	ネット出願に全面移行
19	専修大◎	44,462	36,536	<b>122</b>	△	21	ネット出願に全面移行/全学部で、英語外部検定が利用可能に(得点換算)/七試利用前・後期で、それぞれに受験料の併願割引を導入/全学部統一入試で学外試験場増設/入学前予約型給付奨学金制度(首都圏以外の出身者対象)採用枠を拡大(200人→300人)
20	京都産業大◎	43,155	35,440	<b>122</b>	△	23	学部増設(現代社会)

「増減」欄について、△＝10%以上の増加、↑＝5%以上の増加 を示す

「大学名」欄について、☆＝一般入試でネット出願を実施(紙と併用、割引なし)、◎＝同(全面移行、紙の願書を廃止) を示す